

メールマガジン「みやぎの自然」 第27号 2004年11月

目次

- 1 「私と自然保護」～人が育てる環境～
宮城昆虫地理研究会 幹事 五十嵐 由里
- 2 「特集」～県内における巨樹、古木の現状について～（第2回）
樹木医 三嶋 久志
- 3 「知っ得情報」～残置森林について～
- 4 「自然保護団体活動PRコーナー」
白石川白鳥愛護会
- 5 「お知らせ」
「田尻町エコツーリズム」シンポジウム開催《田尻町から》
環境創造型農業シンポジウム
「第4回ふゆ・みず・たんぼシンポジウム」開催《田尻町から》
「県民の森」植林ボランティア募集《宮城県から》
自然教室を開催します。《宮城県から》
みやぎ自然環境サポーター養成講座受講者募集《宮城県から》
こもれびの森（森林科学館）の冬季閉館のご案内《宮城県から》
県クレ射撃場の休業日変更のお知らせ《県クレ射撃場から》
シナイモツゴ郷の会NPO法人設立記念シンポジウム
「生態系保全とブラックバス対策」開催のお知らせ《シナイモツゴ郷の会から》

「私と自然保護」～人が育てる環境～

宮城昆虫地理研究会 幹事 五十嵐 由里

私が所属している宮城昆虫地理研究会は、昆虫の分布調査を主目的としている団体だ。むろん昆虫好きの集まりなので、いい虫を採りたい・集めたいという趣味的な部分もある。だが人間の活動範囲が広がり続ける今日では、いなくなってしまう前に記録しておこうという動機も大きい。昆虫は特に植物と密接に関わり合っているため、愛好者は自然環境の変化にとっても敏感なのだ。

愛好者の多くは自分のフィールドを定めているものだが、私も十数年前から泉ヶ岳の麓に通っている。特に今年は早春から FIT（注）を設置しているため、メンテナンスも兼ねてほぼ週に一度は訪れてきた。地味な定点調査だが、県内初の記録となるものも含めて興味深い種が続々と得られている。といってもすなわちそれが希少な種だとか、この土地が特殊だということにはならず、多くの場合、ただ調べられていなかったということを示すに過ぎない。ありふれた低山帯でこうだから、調査が行き届けば飛躍的に多くの昆虫が確認されるのは間違いない。そしてそれが急務であることは、始めに書いた通りだ。

しかしこれは私の仕事でもないし、使命感だけで通っているわけでもない。心惹かれる風景あつてのことだ。人里に近い位置にありながら人工林の割合が高くなく（それもよく手入れされている）また豊かな水が地形や植生に変化を与えて、四季の移り変わりを楽しむことができる。とりわけ気に入っているのは、調査地へのアプローチとなっている麓の山里だ。泉ヶ岳へと緩やかに登る道には土の用水路が沿い、初夏には群れ飛ぶホタルを見ることができる。頭上には広葉樹がさしかかり、土手は丁寧に刈り込まれて春にはツツジのじゅうたんとなる。手入れする人の愛情が伝わってくる、とても美しい道だ。

いつまでこの景色が見られるのだろうか、とは常々感じてきた。譲り合わなければすれ違うことのできない道だ。住む人にとって不便なら拡幅は必要だろうし、そうなれば水路の改修も避けられないだろう。どう考えてもこればかりは仕方のないことに思え、鮮やかな新緑とは裏腹な感傷に浸っていたころ、この地域を特集したテレビ番組を見た。水と密接に結びついたこの山里の一年を追ったもので、なにより地元の方々がこの環境を大切に守り育てているのを知り、とても心強く思った。私が自然保護に寄与できるとすれば、愛好家として昆虫を調べる以外にないが、過去の記録とならないことを切に願う。また外来者の一人として、地元の方々にできるだけ負担をかけないように調査を続けていければと思う。

（注）FIT

flight interception trap = 衝突板トラップ。飛翔する昆虫をとらえるために開発されたもので、普段は目に付きにくい微小な昆虫類が得られる。

五十嵐 由里（いがらし ゆり）氏のプロフィール

仙台市生まれ。仙台市泉区在住。宮城昆虫地理研究会幹事。

「特集」～県内における巨樹、古木の現状について～（第2回）

樹木医 三嶋 久志

国、県ならびに市町村の天然記念物あるいは文化財に指定されている樹種はスギが最も多く、いかに長命で巨大な樹体を作り出しているかが分かる。蔵王町の「彌陀の杉」、築館町の「薬師堂の姥杉(うばすぎ)」は千年を越しているといわれる。いずれも樹体内部は腐朽し空洞化しており、後者は落雷のため半身だけの生存で哀れな姿を呈している。

次いでアカマツであるが、形態的に変化した名取市の「衣笠の松」や本吉町の「役場の笠松」、変種の「ウツクシマツ(篝松)」等が珍しい。

第3位はイチョウ(銀杏)で、特に有名なのが仙台市苦竹の「乳銀杏」であろう。千年の齢を経た乳柱の発達に驚嘆させられ、樹下の「銀杏姥神」に参詣の人が後を絶たない。この他、県内で樹高の1、2を争っている柴田町の「雨乞の銀杏」と丸森町の「丸森の大銀杏」がある。

第4位はカヤ(榎)であり、各地に見られるが、いずれも樹形や種子に変化がみられる。種子では白石市の「小原の左巻き榎」及び「小原の小粒榎」、仙台市の「東昌寺の丸実榎」、樹形では古川市の「長久寺の榎」等がある。

第5位はケヤキ(欒)である。樹冠の拡がりの大きいのが特徴である。なかでも白石市の「嘉右衛門山の逆さケヤキ」は1,450平方メートルに及ぶ広さを有している。この他、玉瘤をもつ村田町の「縄文の欒」も珍しい。

第6位はサクラであるが、有名なのは何といっても大河原町と柴田町を流れる白石川の堤防のサクラ(ソメイヨシノ)並木である。「一目千本桜」として残雪の蔵王を背景とした眺めは絶品である。エドヒガンも種まきサクラとして各地に残っているが、その変種である石越町の枝垂れ桜、「昌学寺の不老桜」は豪華絢爛さを誇っている。

数百年から千数余年を経たこれらの巨樹の置かれている現状はどうだろうか。立地している鎮守の森や寺社の境内等は経済成長の時代に著しく環境が改変されるなど、伐採の悲運に遭遇するか、あるいは根系の切断など致命的なストレスに侵され、その回復に懸命に立ち向かっている古木に出会うことが多い。

地域の人達も残された古木の扱いに善意で対処してきているが、その方法が誤っていることが多い。

例えば根系が地上に露出している場合、大抵の人は気の毒に思い、すぐ土を被せてしまう。樹木自身は一度植栽されると、その場所を好まないからといって別の場所へと簡単には移動できない。数百年をかけてその場所の環境に馴染むよう努力を重ねてきている。根も呼吸するため地上に這い上がり、子供達などの踏圧を受け入れながらも根系群を形成している。先人達は良かれと思って土盛りをしたことが、逆に根を窒息に至らしめ、根腐れの症状を呈し地上部の枝葉が異常を来すことが多い。このような事例は各地に見受けられ、樹勢衰退の大きな原因になっている。

樹木の診断は主として枝葉に現れた異常性から病害虫によるものなのか、水分ストレスからくる信号なのか、あらゆる事態を想定し、その裏付けを探すのである。そしてその原因を排除することにより命を救うことができる。

また、老木は樹体に古い傷があり、大小様々の空洞を形成していることがある。これは古木の腐朽菌と戦った勲章ともいえるもので、永い間これらの菌と共存してきている。自分の根を朽ちた空洞に発達させ、栄養をとりながら生存を続けている。私たちはともすれば外科手術と称して、この腐朽部を切削洗浄して防腐剤を塗布してきた経験がある。一見正常な行為にみられるが、樹木にとっては甚だありがた迷惑なことで、術後徐々に衰退し、最後には枯損するという悲劇になりかねない。樹種によっても様々なケースがあるが、以後この経験を生かして、樹木の根は大切に扱うことにしている。

知っ得情報

残置森林について

住宅地周辺の紅葉も見頃となっていますが、住宅団地の周りや別荘地の間に、うっそうと茂る森林が配置されていることにお気づきでしょうか。これらの森林は、元々の森林を開発して住宅団地や別荘地を造成するときに、森林の働きを考えて、周辺の環境が急に変わらないように配慮し、適切に残された森林（残置森林）です。

なぜこのような配慮が必要なのでしょう。それは森林が、私たちの暮らしに四季折々に安らぎを与え、きれいな水と空気を育みさまざまな災害を防いでくれたり、日ごろ気づかないところで私たちの生活を守ってくれているからです。こうした森林の働きがあるからこそ、毎日安心して快適に暮らすことができるのです。

このことから県では、無秩序な開発によってこのような森林の働きが脅かされないよう森林法に基

づく1ヘクタールを超える森林（国有林や保安林を除く。）の開発について、森林を残す目安などの一定のルール（「林地開発許可基準」）を定め適正な森林の利用を推進しています。

身近なところで四季折々に安らぎを与えてくれている残置森林の存在を意識してみてはどうでしょうか。

自然保護団体活動PRコーナー

白石川白鳥愛護会

本会は昭和47年7月に5名の会員で設立されました。既に故人となられた元会長2人からは、当初は専ら白鳥の餌の確保と餌付け作業で精一杯であったと、苦労話を聞かされました。現在は3代目の会長に引き継がれていますが、本会の事業内容も多様化し、蔵王町宮地域を中心に、白石川に飛来する白鳥等の野鳥たちが安心して生息できるための各種事業を総勢31名の会員で展開しています。

県のはからいで、本会が事業を行う地域内に「蔵王町松ヶ丘白鳥公園」を、さらには公園内にマコモ田を設置していただきました。このような環境整備に伴い平成15年6月には、白石川を管理する大河原土木事務所及び蔵王町と「みやぎスマイルリバー・プログラムに関する覚書」を締結し、新たな事業を展開することとなりました。その内容は、蔵王町宮松ヶ丘白鳥公園の清掃・除草作業、マコモ植栽及び白鳥等への餌付け作業です。

清掃・除草作業は会員を4班に編成し、原則毎月1回実施しています。マコモの植栽は毎年7月に蔵王町宮小学校児童の校外学習の一環として、児童80名の応援を得て実施しています。マコモの根は白鳥の好物である他、河川水質の浄化に大変役立つことが知られています。

白鳥等への餌付け作業は、蔵王町の協力を得ながら餌の確保を図り、さらに製パン工場から応援をいただきながら、4班編成で餌の搬入作業を行います。白鳥たちが飛来する11月初旬から翌年3月中旬までの約5ヶ月間、朝夕2回の餌付け作業を実施しています。

白鳥の飛来数はその年により異なりますが、300～400羽程度です。JR東北本線東白石駅の向かいが白鳥飛来地です。車窓から名峰蔵王を背景に白鳥を間近に見ることができる絶景地です。

平成2年から、毎年2月の第2日曜日に「みやぎ蔵王白鳥まつり」を開催しています。来年は2月

13日に開催します。催事内容は次のとおりです。

- (1) 白鳥と野鳥たちとの餌付けふれあいコーナー
- (2) 蔵王町特産「あったかり芋とん汁」サービスコーナー
- (3) お楽しみ抽選会、白鳥愛護会PRコーナー
- (4) みやぎ蔵王物産観光ガイドブック・白鳥のしおり等配布
- (5) 蔵王町小学児童の自然環境保全標語入選作品、小学児童マコモ植栽作業時の写真パネル及びマコモの根の展示

お知らせ

「田尻町エコツーリズム」シンポジウム開催《田尻町から》

田尻町は、環境省より「里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み」として「国立公園等エコツーリズム推進モデル事業」モデル地区全国13の内の1つとして選定されました。

エコツーリズムとは、自然保護を図る「エコロジー」の「エコ」と、観光旅行を示す「ツアー」、考え方を示す「イズム」からなる言葉で、自然環境を保全するだけでなく、魅力ある自然を活用し、多くの来訪者が訪れ、自然とふれあえるプログラムなどを整備していこうという取り組みです。

町では、既往の取り組みである蕪栗沼の保全、ふゆ・みず・たんぼ（冬期湛水水田）環境共生型農業の展開に加え、新たに環境と経済の調和を図り、田尻町民が誇りを持って暮らし続ける姿を、このエコツーリズムを契機に進めてまいりたいと考えております。

今回のシンポジウムは、町内外の皆様幅広くエコツーリズムを認知していただきながら、多くの方々が参画する事業とするために開催するものです。

基調講演&パネルディスカッション

日時：12月3日（金）12:30～15:20

場所：田尻町文化センター

内容：基調講演1「環境からみた田尻町の魅力」

基調講演2「エコツーリズム先進地、コスタリカでの取り組み」

パネルディスカッション「地域の魅力を再確認そして未来へ」

2万羽の雁ねぐら入りツアー

日時：12月3日（金）15:30文化センター出発、17:00解散

場所：蕪栗沼

参加費：500円

田尻の魅力発信交流会（懇親会）

日時：12月3日（金）18:00～20:00

場所：田尻町加護坊四季彩館

参加費：4,000円

2万羽の雁飛び立ちツアー

日時：12月4日（土）5:30ホテル出発、7:00解散

場所：蕪栗沼

参加費：500円

【参加申し込み及び問い合わせ】

田尻町商工観光室

宮城県遠田郡田尻町沼部富岡183番地3号

TEL：0229-39-1115（内線180） FAX：0229-39-3100

E-mail：s0258@town.tajiri.miyagi.jp

ホームページ：http://www.town.tajiri.miyagi.jp/

詳しい内容、参加申込書は、田尻町ホームページを御覧ください。

申し込み期限：11月15日（月）

環境創造型農業シンポジウム「第4回ふゆ・みず・たんぼシンポジウム」開催《田尻町から》

宮城県発祥の環境創造型稲作「冬期湛水不耕起無農薬水田（ふゆ・みず・たんぼ）」は、生物多様性を高めるだけでなく、水田に投入する資材や労力が少なく、除草剤を使わない抑草技術として期待されるなど、新時代の環境創造型農業の可能性を大きく広げました。

21世紀稲作の主流となりうる環境創造型稲作をより普及実践するために、実践農家、調査研究者、行政、NPO等が集まり、下記の内容で開催することになりました。

日時：12月4日（土）、5日（日） 2日間

場所：田尻町文化センター（メイン会場）

内容：基調講演1「複合生態系を再生する、環境水田」（仮題）

基調講演2「コウノトリと共生するまちづくり」

報告テーマ1「ふゆ・みず・たんぼ技術の現状と未来」

報告テーマ2「農家から見た現状と未来」

報告テーマ3「農業・水・環境と地域活性化の政策」

報告テーマ4「たんぼと沼と環境教育」

交流会 18:30～20:00 田尻町中央公民館軽運動室

雁の飛び立ち観察会 12月5日（日）6:00～8:00 蕪栗沼

分科会テーマ1「ふゆ・みず・たんぼ技術の現状と未来」

分科会テーマ2「農家から見た現状と未来」

分科会テーマ3「農業・水・環境と地域活性化の政策」

分科会テーマ4「たんぼと沼と環境教育」

【参加申し込み及び問い合わせ】

田尻町農政商工課

宮城県遠田郡田尻町沼部富岡183番地3号

TEL：0229-39-1115（内線190） FAX：0229-39-3100

E-mail：s0348@town.tajiri.miyagi.jp

ホームページ：http://www.town.tajiri.miyagi.jp/

詳しい内容、参加申込書は、田尻町ホームページを御覧ください。

申し込み期限：11月15日（月）

「県民の森」植林ボランティア募集《宮城県から》

今年5月に焼失した県民の森内の「四季の森」の広葉樹林を復元するため、植林作業をお手伝いいただけるボランティアを募集します。（事前申込不要）

日時：11月14日（日）午前10時～正午

場所：県民の森内「四季の森」駐車場に集合

持ち物：作業着など汚れてもよい服装、帽子、軍手、スコップ

宮城県環境生活部自然保護課みどり保全班

住所：〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

TEL：022-211-2676 FAX：022-211-2693

E-mail：sizent@pref.miyagi.jp

自然教室を開催します。《宮城県から》

森のクリスマス

期日：12月5日（日）

場所：大和町蛇石せせらぎの森

内容：森の材料を使ってクリスマスに関わる物を作ります。

対象：小学以上20人（応募多数の場合、抽選）

参加費：500円

申込み：11月19日（金）まで

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いします。

特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

自然教室事務局 TEL：090-1936-0606

宮城県環境生活部自然保護課自然保護班

住所：〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

TEL：022-211-2674 FAX：022-211-2693

E-mail：sizens@pref.miyagi.jp

ホームページ：http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/

みやぎ自然環境サポーター養成講座受講者募集《宮城県から》

自然体験・観察、森林の手入れなどの体験作業等を行う「みやぎ自然環境サポーター養成講座」受講者を募集します。受講者には自然環境に関する情報提供や各種調査に御協力いただきます。

第10回開催

日時：12月5日（日）10時～15時

場所：県民の森（利府町）中央記念館集合

内容：冬鳥の観察、クリスマスリース作りなど

募集定員：30人（応募多数の場合、抽選）

応募締切：11月19日（金）消印有効

参加費：無料

申込方法：往復はがきに各事項を記入の上、下記宛先へ申し込み願います。

希望受講日

住所、氏名、年齢、性別、電話番号

返信はがき表面に住所、氏名を明記の上、

〒981-0121 利府町神谷沢字菅野沢41

宮城県森林インストラクター協会事務局へ

宮城県環境生活部自然保護課みどり保全班

住所：〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

TEL：022-211-2676 FAX：022-211-2693

E-mail：sizent@pref.miyagi.jp

ホームページ：http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/

こもれびの森（森林科学館）の冬季閉館のご案内《宮城県から》

野外学習の場や森林レクリエーションの場として広く御利用いただいておりますこもれびの森（森林科学館）は、12月1日（水）から翌年3月31日（金）まで閉館になります。また、閉館期間中はこもれびの森内の散策路も閉鎖します。来年4月から通常どおり御利用できますので、皆さんの御来館をお待ちしております。

宮城県環境生活部自然保護課みどり保全班

住所：〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

TEL：022-211-2675 FAX：022-211-2693

E-mail：sizent@pref.miyagi.jp

ホームページ：http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/

県クレ射撃場の休業日変更のお知らせ《県クレ射撃場から》

狩猟期前の11月1日（土）から11月14日（日）までは休まず営業します。

なお、平成17年1月26日（水）と2月9日（水）、2月23日（水）は臨時休業します。

通常の休業日

4月～11月、3月：月曜日（休日の場合は翌日）、休日の翌日（土日除く）
12月～2月：月・火曜日、休日の翌日（土日除く）等

開業時間

10月～11月：午前9時～午後5時
12月～3月：午前10時～午後4時30分
4月～9月：午前9時～午後6時

【問い合わせ】県クレー射撃場（狩猟者研修センター）TEL：0224-84-6551

シナイモツゴ郷の会NPO法人設立記念シンポジウム「生態系保全とブラックバス対策」開催のお知らせ《シナイモツゴ郷の会から》

60年ぶりに再発見されたシナイモツゴを守るため、2002年に鹿島台町の有志が中心となって「シナイモツゴ郷の会」を結成しました。それ以来、郷の会はシナイモツゴの人工繁殖・生息池の拡大やブラックバス駆除など水域の生態系保全と復元に努めてまいりました。郷の会は、生態系保全を行政と協働で取り組むべき課題として認識し、今後はさらに先駆的な活動を広範囲に展開するためNPO法人として再出発することになりました。これを記念してシナイモツゴの保護を連携して推進している鹿島台町と共催でシンポジウムを開催しますのでご参集下さい。

当地では1990年代から伊豆沼など天然湖沼、県内に6000箇所も存在するため池や大小の河川の多くにブラックバスが侵入・繁殖し、淡水域の生態系は崩壊の危機にさらされています。バス駆除はその必要性が強調されてきたにもかかわらず、バス生息域の大半を占める平野部の透明度の低い水域においては、一部を除き有効策が無かったためバス駆除による生態系復元は困難でした。当地では、地元の研究者がブラックバスの影響を詳細に再検討すると同時にNPOとボランティアが根本的な解決を目指した大胆な活動を展開しています。この結果、全国に先駆けて多くの成果が得られ、バスの繁殖抑制にも確かな手応えを感じています。今回は、水域生態系保全の最緊急課題であるブラックバスなど移入種の影響を鋭くえぐり出すと共に、その解決方法を提示し、生態系復元の戦略と戦術を参加者と共に議論したいと考えています。

まず、外来・移入種対策で最先端の研究に携わっておられる細谷和海氏(近畿大学)、中井克樹氏(琵琶

琵琶湖博物館)、高田啓介氏(信州大学)に生物学的な立場から種多様性を維持するための戦略を語っていただきます。また、ブラックバス問題の最前線である宮城県において、さまざまな市民レベルの取り組みが始まっていますので、それぞれの分野のパイオニアに画期的な新技術や仕組みを、詳細に紹介していただきます。

膨大な予算を投入して最先端の土木工法を駆使しても、ブラックバスなど強力な捕食種が繁殖を続けている限り、失われた生態系を復元することは困難です。生態系復元が叫ばれる中、ブラックバス駆除は最も緊急に取り組むべき課題です。これまで透明度の低い水域におけるブラックバス駆除は困難でしたが、新しく開発し実施されている新技術と体制により明るい未来が見えてきました。多くの方々の本シンポジウムで根本解決を目指した熱い議論に参加していただくことを願っております。会員一同、皆様とシナイモツゴの模式産地でお会いできることを楽しみにしております。

なお、夜の部では食事をしながらの情報交換会(スライド放映会1題10分程度)を開催しますので、発表希望の方はお申し出下さい。

本シンポジウムは平成16年度みやぎNPO夢ファンドの助成を受けております。

「シナイモツゴ郷の会」NPO法人設立記念シンポジウム「生態系保全とブラックバス対策」

主催：シナイモツゴ郷の会(NPO法人認証申請中)・鹿島台町

期日：11月20日(土)午後1時～5時

会場：鎌田記念ホール(宮城県鹿島台町JR鹿島台駅近く)

参加費：無料(講演要旨集500円)

生態系復元を目指す情報交換会開催のお知らせ

夕刻に食事をしながら情報交換会を開催します。

情報提供(スライド映写会)および参加希望の方は申し込み下さい。

期日：11月20日(土)午後6時30分から

会場：鹿島台町学童農園(大迫早坂山, シンポ会場から無料バスで送ります)

参加費：3000円(食事代など, 当日徴収)

シナイモツゴ模式産地見学会開催のお知らせ

桂沢ため池（シナイモツゴとゼニタナゴが生息 = 重要湿地500）

明治潜穴公園（品井沼干拓を可能にした排水路）を見学

移動はマイクロバス

定員50名（遠方から来られる方優先）

期 日：11月21日（日）午前 8 時30分から

会場：桂沢ため池（鹿島台町山谷地区）、明治潜穴公園（松島町）

参加費：無料

【問い合わせ】

鹿島台町公民館

TEL0229-56-2510 FAX56-5047

〒989-4102

宮城県志田郡鹿島台町木間塚小谷地504-1

mail ; kasi@palette.furukawa.miyagi.jp

御意見・御希望・お問い合わせ先など

メールマガジンはHTML形式で配信しておりますが、TEXT形式での配信を希望される方は、メールで御連絡ください。また、メールアドレスを変更された場合にもメールで御連絡ください。

今後もより良いメールマガジンづくりをしていきますので、皆様から御意見・御希望などをお待ちしています。このメールマガジンを友人やお知り合いの方にもぜひ御紹介ください。

来月以降の送信を希望されない方は、誠に恐れ入りますが、下記の連絡先まで御連絡ください。

【宮城県環境生活部自然保護課】

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号

TEL : 022-211-2671 / FAX : 022-211-2693

E-mail : sizen@pref.miyagi.jp

URL : <http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/>